

基礎的・基本的な知識を身に付け活用できるよう指導しましょう

物事を考え、理解するためには知識が必要です。個々の知識が関係付けられることで理解し、理解されたことが新たに知識として記憶されるわけですから、児童が、学習を通して知識を獲得し、学習や生活の中で知識を活用できるよう、指導を工夫していく必要があります。

教育課程実施状況調査の結果では、我が国の国土に関する知識の定着には課題がみられます。

- ・都道府県の名称と位置に関する問題の通過率・・・46.2%(全国・・・47.7%)
 - ・日本列島を構成する主な島のうち「北海道」を答える問題の通過率・・・45.2%(全国・・・48.4%)
 - ・「冬の寒さから暮らしを守る工夫」に合う資料を選ぶ問題の通過率・・・67.8%(全国・・・79.5%)
 - ・国土の位置、地形や気候のようすについて「よく分かった」と回答した児童の割合・・・56.3%
(全国・・・50.1%)
- (「平成16年度教育課程実施状況調査」より)

都道府県の位置や名称などの一般常識といわれる知識も含め、各学年の学習内容を理解することや、獲得した知識や技能などを活用できるようにすることの重要性をもう一度確認し、授業の中でしっかり指導していきましょう。

学習内容を確認しましょう

学習指導要領の「各学年の内容」には、何を、どのような方法で調べ、何を考えさせたいのかが示されています。第5学年を例にとると、右の下線部は、調べる対象であり、調べることを通して理解させたい内容でもあります。

当該学年の目標、内容を確認し、単元の学習を通して身に付けさせたい基礎・基本を明確にして、授業に臨みましょう。



第5学年 内容

- (3) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。
- ア 国土の位置、地形や気候の概要、気候条件から見て特色ある地域の人々の生活
 - イ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ
 - ウ 国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働き

2 各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の留意点

- (2) 各学年において、地図や統計資料などを効果的に活用し、次第にわが国の都道府県の構成について分かるようにすること。

小学校終了段階までに、わが国は47の都道府県から構成されていることを理解し、日本地図上でそれらが分かるようにすることが大切である。

(「小学校学習指導要領解説 社会編」より抜粋)

1 作業的活動を効果的に行い、学習内容を理解させましょう

指導のポイント

- 1 活動のねらいと内容をはっきりさせる。
どんなねらいで行うのか、気付かせたいことや考えさせたいことは何か、何を、どのようにさせるか など
- 2 前後の学習活動との関係を考慮する。
- 3 作業中の気付きや疑問などを学習に生かす。

社会科の授業では児童に作業させる場面が少なくありません。「書く（描く）」「作る」「構成する」などの表現を伴う作業的活動を通して得た知識は、聞いて知った知識よりしっかりと身に付きます。単に「知る」のではなく、知ることを通して発見や気付きがあり、「分かった」「できた」という実感をもつことができれば、学習内容の理解も深まるはずですが、ただし、学ばせたいことをはっきりさせておかないと、児童は作業することだけで満足してしまいがちなので、注意が必要です。

ここでは、作業的活動をいくつか取り上げて、活動のねらいと指導の留意点を示します。これまでの実践の中で、学習内容の理解や知識の定着に効果があったと思われるものを確認し、さらに効果的な方法を考えるための参考にしてください。

作業的活動の例

地図をていねいに見ることや、作業を通しての気付きを大切にする。

ア 地図を書き写したり、略地図を描いたりする

(例) 我が国の国土の構成

日本列島の略地図を描くことで、我が国の位置や国土の構成についての理解を確かなものにする。

【作業の手順】

- 1 教科書や地図帳を見ないで、日本の形を描いてみる。
- 2 描いたものを友達と見せ合い、感想や気付いたことを話し合う。
- 3 地図帳で日本の位置と領土、国土を構成する主な島（北海道・本州・四国・九州）を確かめる。
- 4 次の手順を参考にしながら、地図を描く練習をする。
地図帳にトレーシングペーパーをのせて日本列島の海岸線をなぞる。
大陸の海岸線を描き加える。
地図を見ながら、日本列島を描く。
地図を見ないで、日本列島を描く
- 5 描いた略地図に、北海道・本州・四国・九州のほか、日本周辺の海や近隣諸国の国名などを地図帳で調べて記入する。

えーと、日本ってどんな形だったかな。まず北海道は・・・

海岸線をなぞるのも結構たいへんだね。



北海道、本州、四国、九州の大きさや位置は、これでいいかな。

イ 指示された地域に色を塗ったり、階層別に色を塗り分けたりする

「分布や地域差をとらえやすくするために色を塗る」という活動のねらいをはっきりさせる。

学習過程における各自の考えや着眼点ができるようにさせておく。

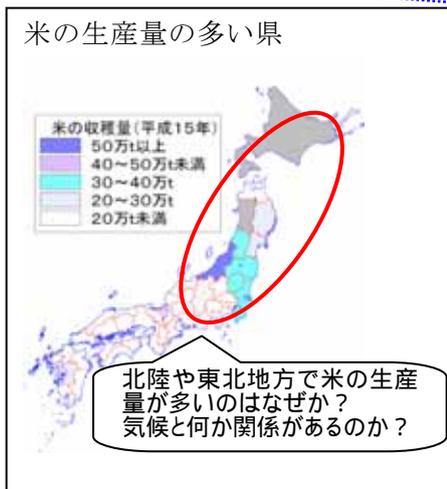
ウ 絵図や図表、白地図などに、自分が読み取ったことを書き込む

(例) 我が国の農業

米の生産量の多い県に色を塗る作業を通して、米の生産量の地域差に気付かせる。さらに、降水量に関する資料などから読み取れることと関連付けて、我が国の米の生産と自然条件との関係について考えさせる。

凡例にしたがって、米の生産量について地図に表す(色を塗り分ける)。地図に表してみても分かったことや疑問などを書き込む。提示された2月の降水量の図から読み取ったことや考えたことなどを書き込む。

米の生産量の多い県



2月の降水量



「米の生産量の多い県」と「2月の降水量」を比べて、気付いたことや疑問を発表したり、友達と話し合ったりする。疑問や詳しく知りたいことについて、地図帳や教科書などを活用して調べる。

地域による違いや分布の様子をみる場合には、地図帳を活用して、地形や土地利用などの様子についても調べさせましょう。



第5学年では、我が国の産業について学習します。授業では、地図や統計資料などを活用し、産業を広い視野で理解できるよう指導することが大切です。仕事の工夫や努力だけを学習しただけで済ませてしまうことのないよう気を付けましょう。

エ 様々な事実を分類・整理して、比較表を作る

比較する観点を設けて、調べたり整理したりすると、相違点や共通点を見つけやすくなることに気付かせる。

(例) 気候条件から見て特色ある地域の人々の生活

十日町市と那覇市の気候や人々の生活の様子などについて調べ、表に整理することで、相違点や共通点に気付かせる。

十日町市と那覇市の気候や人々の生活について、教科書や資料集などを活用して調べる。

どのようにすれば、それぞれの地域の特色がとらえやすくなるか話し合う。

十日町市と那覇市を比較する観点を決め、調べたことを表に整理する。

表に整理して分かったことを書く。

表にまとめると、十日町市と那覇市を比べることができて、違いや共通点が分かりやすくなるわ。



このような観点を設けて比較しながら表にまとめることで、十日町市と那覇市の気候や人々の生活様子などについて、相違点や共通点が整理できます。

比較するための項目は、空欄にしておき、話し合いで児童に決めさせてもよいでしょう。

「気候条件から見て特色ある地域の人々の生活」

○これまで学習してきたことをもとに、「十日町市」と「那覇市」の特色を比べよう。

比べること	違い		共通点
	十日町市	那覇市	
気候条件			
人々のくらし	家のつくり		
	産業		
	歴史や文化		
	人々の願い		

まとめ:

共通点に着目させることで、「人々が自然環境に適応しながら生活や産業を営んでいること」がとらえやすくなります。

比較・整理した表を見て、全体として何がいえるか、書かせます。

書いたことを読み合ったり発表し合ったりして検討する場面を設け、学習内容についての理解を確かなものにすることが大切です。

社会的事象は、比較することによって違いや特色が一層明確になってきます。表に整理するよさを知って、児童自らが観点を設定し、比較しながら社会的事象を整理できるよう、指導することが大切です。

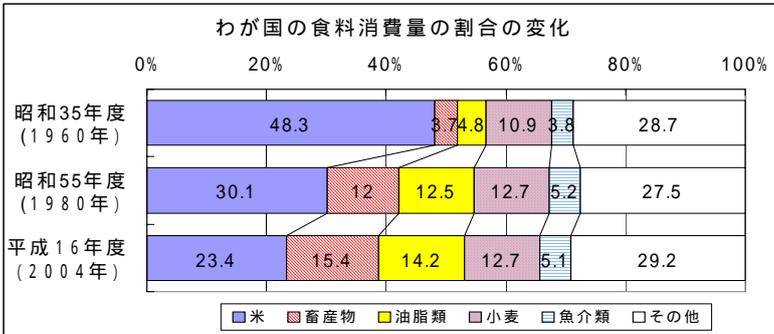


オ 様々な事実の関連を考えて、図に表す

事実の前後関係やつながりが分かるように表現させる。関連については、理由や結果、結論としていえることなどを考えさせる。

(例) 我が国の食料生産

食料の中には外国からの輸入しているものがあること、食料の輸入量が増えていることについて調べ、輸入量が増えたことの原因を図にまとめることで、国民の食生活を支える農業や水産業、貿易の役割について考えさせる。



日本人の食生活の変化と、食料の輸入量が増えていることは何か関係があるのかな。

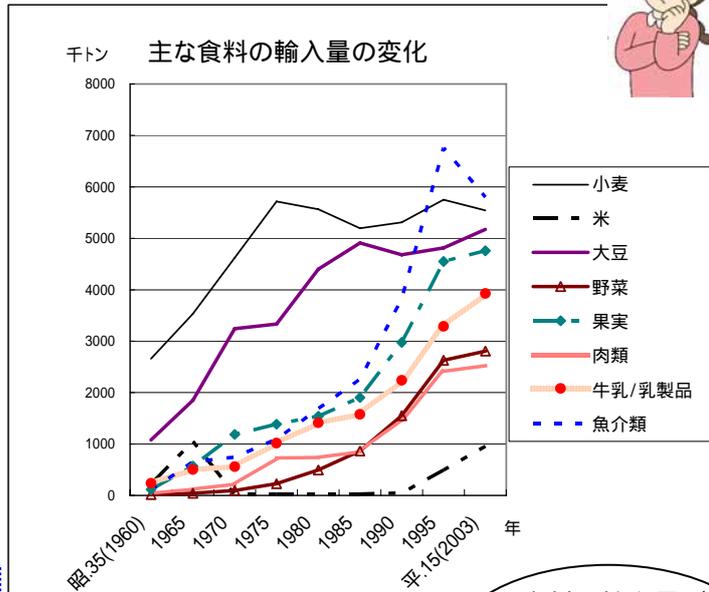
「食料需給表」(農林水産省)より作成

我が国の食料消費量の割合の変化や、食料の輸入量が増えていることを、統計資料から読み取る。

全体の傾向をとらえるとともに、変化の大きい項目や時期に注目させる。

輸入の割合の高い食料について、地図帳を活用して、主な輸入相手国を調べる。

日本の農業や水産業について学習してきたことをもとに、食料の輸入量が増えた理由について調べる。

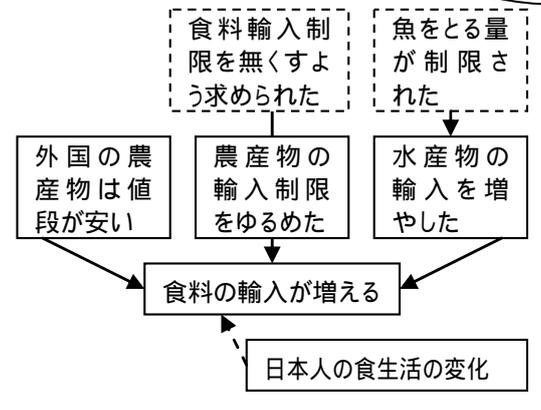


食料の輸入量の増加と関係あると思われることをカードに書き、友達と話し合いながら、似ている内容や関係の深いカードを分類・整理する。

整理したカードを参考にしながら、食料の輸入が増えた理由について、各自、図にまとめる。

国民の食生活を支える農業や水産業、貿易の役割について考える。

食料の輸入が増えた主な理由



食料の輸入量が増えた理由について、図のようにまとめてみたよ。

カ 調査結果や統計資料などを基に、地図やグラフなどに表す

(例1)
身近な地域の様子を調べて、絵地図や白地図に表す。

(例2)
買い物調べの結果を学級全体でまとめてグラフに表す。

(例3)
学校や地域にある防火施設を調べて、種類や位置を白地図に表す。

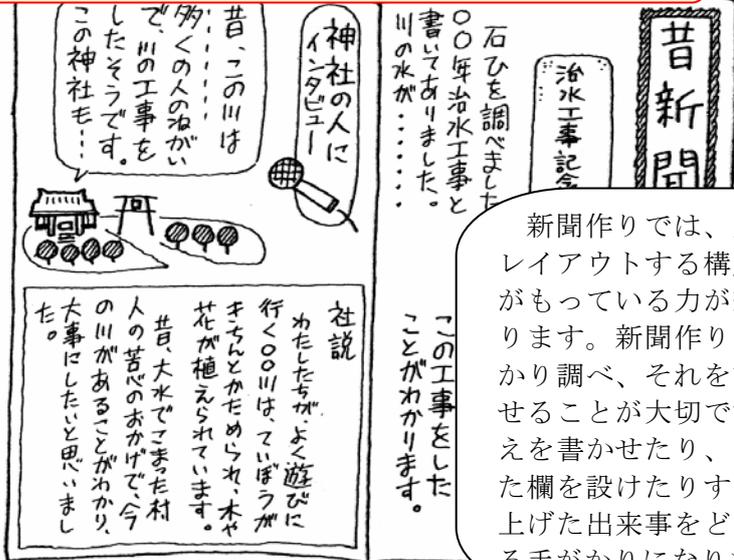
事実をできるだけ正確に、分かりやすく表現させる。
表現したものを見て考えさせる場面を設け、特色や全体的な傾向などをとらえさせる。

キ 調べたことや学習したことを新聞やガイドマップなどにまとめる

【表現させる際に指導する観点】

- 目的が明確か
- 伝えたい相手を意識しているか
- 目的に即した内容に絞り込んでいるか
- 自分が考えたことや意見を述べているか
- 表現の仕方、記述方法を工夫しているか

作業にかかる時間と他の学習活動との関連を考慮し、単元に位置付けるなどして計画的に行えるようにする。



新聞作りでは、文を書き、絵を描き、記事をレイアウトする構成力も必要になるため、児童がもっている力が総合的に発揮されるよさがあります。新聞作りをさせる際には、事実をしっかり調べ、それを読む人が分かるように表現させることが大切です。社説という形で自分の考えを書かせたり、コマーシャルやコラムといった欄を設けたりすると、児童が記事として取り上げた出来事をどのようにとらえているか、知る手がかりになります。

確認しよう！

作業的活動の主なねらい

作業を通して
資料の内容を読み取る
事実を把握する
社会的事象の意味を考える
理解を確かなものにする など



活動のねらいをはっきりさせることが大切です。

2 「図解」を活用して学習内容の理解を図りましょう

「図解」することは、「理解すること」や「考えること」、さらに、「伝えたいことを効果的に表現すること」に役立ちます。図解は思考を伴う作業なので、学習内容の理解を助け、知識や技能を身に付けることにつながります。特に、社会的事象の特色や相互の関連を考える際には、表に整理したり図に表したりすることが有効です。図解することによって、事象間の関係や全体像がはっきりして内容をよく理解することができるからです。

これまでに示した作業的活動の中にも、図解という方法を用いたものが含まれていますが、学習内容を理解し自分の考えを効果的に表現する方法として積極的に活用したいものです。また、教師にとっても、単元の構成や教材の内容について理解し、学習内容を整理したり構造的な板書を工夫したりするなど、指導事項を明確にして授業に臨むうえで必要な技能といえます。

【図解することの利点】

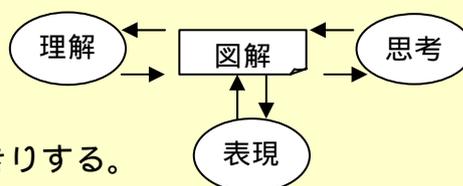
学習内容や指導事項が明確になる。

重要なことや伝えたいことがはっきりする。

表や図を示しながら、具体的に説明をすることが可能になる。

学習内容のまとめや発表などを評価する際の視点が明確になる。

分かりやすい資料の提示、構造的な板書やノート指導につながる。



(1) 図解する手順を指導する

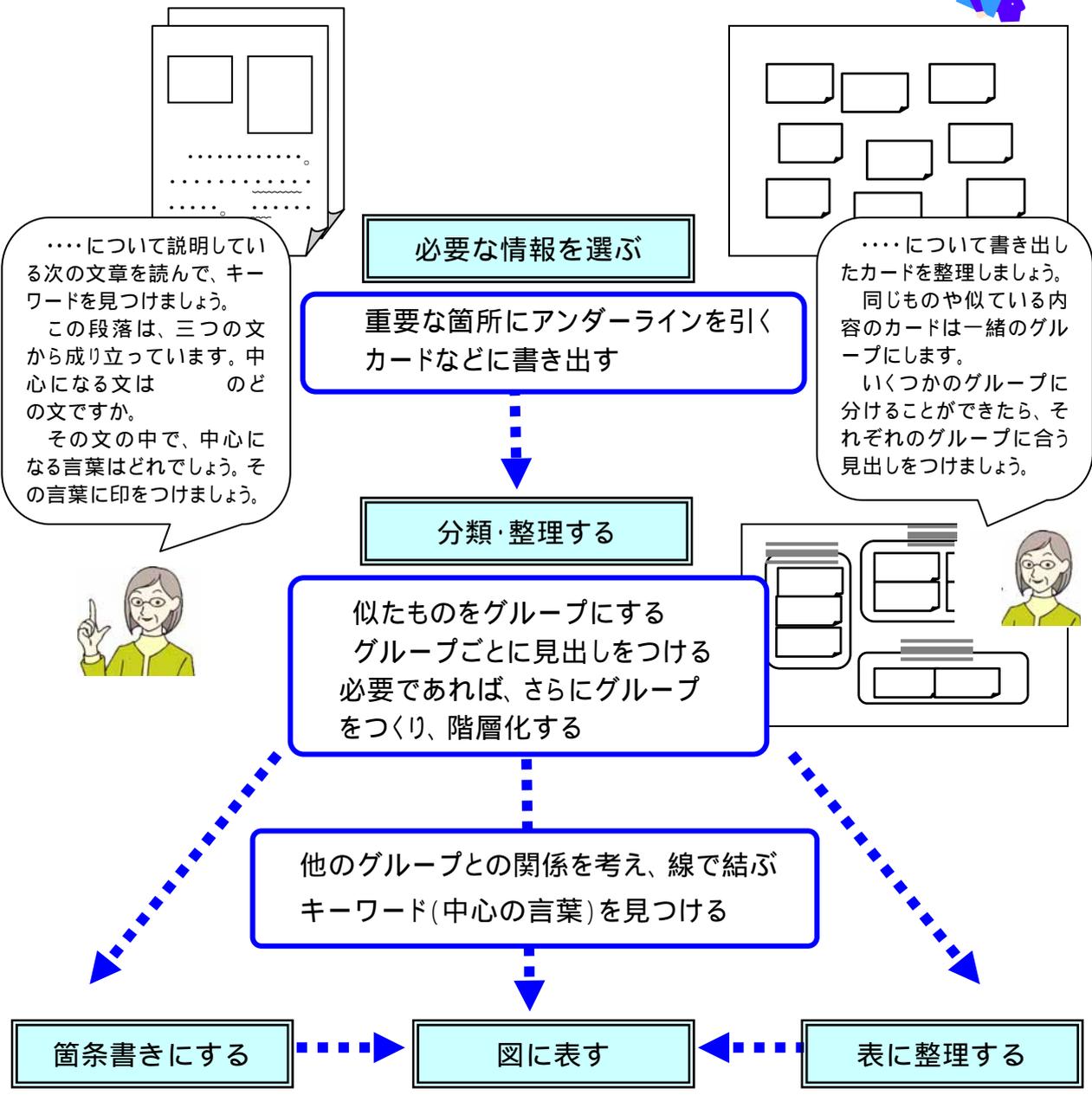
社会科の目標では、観察や資料活用能力、社会的事象の特色や相互の関連などについて考えることに加え、「調べたことを表現すること」が重視されています。これは、表現する過程で、学習内容を再構成し、思考を働かせたり知識や技能を活用したりすることによって、理解が深まることが期待できるからです。

しかし、実際に、学習問題について調べさせてみると、教科書や資料などに書いてある文をそのまま書き写してしまう児童が少なくありません。その理由の一つに、問題解決に必要な情報を選んで整理する力が身に付いていないことが考えられます。そこで、調べるための時間と資料を与えるだけでなく、資料を読み取ったり、要点や自分の考えを効果的に表現したりする技能が高まるよう、指導を工夫する必要があります。

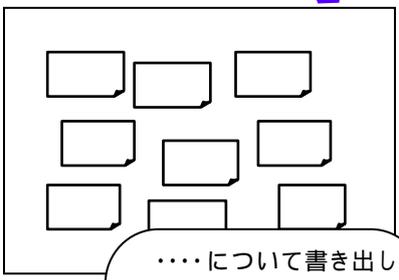
図解するということは、キーワードを把握し、相違点や共通点に気付いて事実の関連付けができるということです。次のページに、図解する手順の概要を示しますので、調べたことを整理させたり、自分の考えを表現させたりする際の指導の参考にしてください。

【図解の手順】

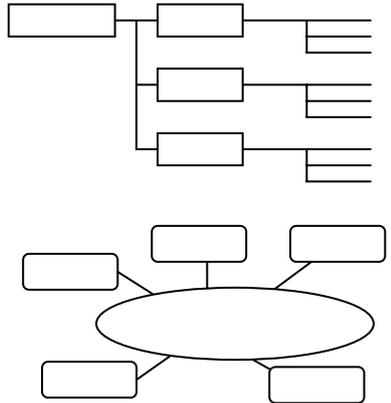
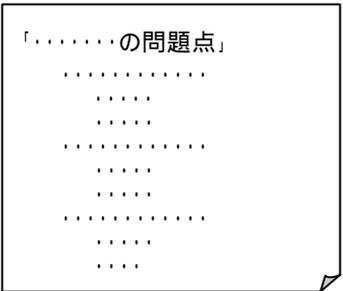
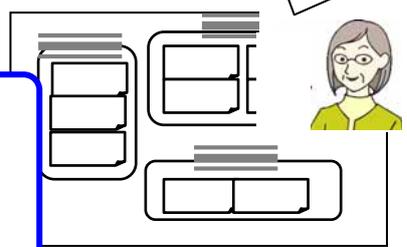
キーワードを把握することや、それらを整理して関連を見いだすことについては、国語科の学習と関連を図りましょう。



……について説明している次の文章を読んで、キーワードを見つけましょう。
この段落は、三つの文から成り立っています。中心になる文は……のどの文ですか。
その文の中で、中心になる言葉はどれでしょう。その言葉に印をつけましょう。



……について書き出したカードを整理しましょう。同じものや似ている内容のカードは一緒のグループにします。いくつかのグループに分けることができれば、それぞれのグループに合う見出しをつけましょう。



【比較・分類表】
・共通点や相違点を明らかにする

【順位表(ランキング表)】
・項目内容の順番を示す

順位	項目
1位	
2位	
3位	

(2) 図解した内容を説明させる

調べるということを、資料に書かれていることをただ書き写すことと認識していると、意味も分からずに書き写したり寄せ集めたりするだけになってしまいます。資料の丸写しや調べて発表するだけで終わってしまわないようにするためには、図解した内容を説明させたり文章で書かせたりする機会を設けるとよいでしょう。自分の言葉で説明させることによって理解が深まります。

人に教えられるように説明できるかどうかを理解の状況を知る目安になるので、調べて分かったことや考えたことを伝え合う場面を授業に位置付けて、友達同士で質問したり教え合ったりさせるなどして、学習内容についての理解を確かなものにしていきましょう。

【説明させること】

- ・ 重要なこと
- ・ 違いや共通点
- ・ 関連がありそうなこと
など

【説明する方法】

- ・ 表や図を見せながら話す
- ・ 説明の文を書き加える
- ・ 図解した内容に「表題」を付ける
など

図解する目的は、情報を整理し、問題解決に必要なことをはっきりさせることです。まず、教師が、学習内容についてどのように説明すれば、児童は理解できるかを具体的に考えましょう。さらに、図解したことを基にして、板書計画や児童に話す内容をあらかじめメモするなどしておくと、授業中の説明や助言が明確になります。



(例) 米づくりの工夫



機械を使って米づくりをするようになったよい点と問題点を次のようにまとめました。図を見ながら、米づくりの工夫について分かったことや考えたことを友達に説明しましょう。

「機械化の進む米づくり」

よい点

- ・ 作業時間や手間が少なくてすむ
- ・ たくさん植えたり耕したりできる

問題点

- ・ 機械の値段が高い
- ・ 機械を使う時期や回数が少ない

工夫：共同で、機械を買ったり利用したりする

機械を使うことで、短い時間で作業できるようになり、米づくりの仕事が楽になってよかったです。



何軒かの農家が、共同で機械を買ったり利用したりできるようにするためには、機械を使いやすいように耕地整備を進めたり、作業の時期について話し合ったりする必要があるということが分かりました。



(3) 様々な事象の関連について考えさせる

社会科では、社会的事象の意味や働きなどを考えることが重要です。様々な事象を集めただけでは、「いろいろなものがある」「努力や工夫をしている」という浅い理解にとどまってしまう。様々な事象を見つけた後に、それらが見られる理由について考えさせましょう。「何のために、それがあるのか」、「なぜ、そうしているのか」ということを考えながら、事象を分類・整理することで、事象間の関連が浮き彫りになります。

ある事実を見つけたら、その後に考えたことを書いてみましょう。
例えば、「町には消火栓がたくさんある」という事実を知ったら、「学校にもあったから のためではないか」、「火事が起きたときの消防車を止める場所と関係があるかもしれない」というように考えてみるのです。

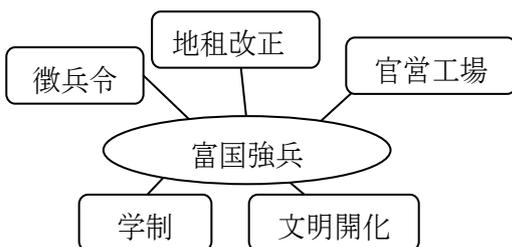


(4) 関係する事実をつなぐ「中心の言葉」を見つけさせる

学習問題について、いくつかの資料や事実を分析し、それらに共通するものを「中心の言葉」として表現させることも、社会的事象の意味や働きを考える方法として有効です。集めた事実をまとめると何がいえるか、学習内容のポイントをどう表現できるかを考えさせるようにします。

「つまり・・・」「まとめてみると・・・」と要約させたり、「そのわけは・・・」「そこからいえることは・・・」などの言葉に続けて考えさせたりするとよいでしょう。

(例) 明治政府の改革



「富国強兵」という中心の言葉を用いて、明治政府が行った様々な政策に共通する考え方を示すことができます。そうすると、徴兵令や地租改正、官営工場の建設などの諸政策が、富国強兵という当時の考え方を支える事実としてあったことが理解しやすくなります。



関係する事実をつないで「中心の言葉」を見つけることは、意味のまとまりを考えることでもあります。こうした学習を繰り返すことで、事実や意味を統合して考え、様々な事実の関連や自分とのつながりに気付くようになっていきます。社会科だけでなく、国語科で段落の見出しを考えたり、理科の実験や観察で規則性や法則を考えたりするなど、他の教科においても指導しましょう。